

指定地域密着型サービス外部評価 自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

↑  取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>			
1. 理念と共有			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p> <p>職員一同で考えた理念を掲げ、それに基づきその人らしく、安心した生活が出来るように心がけている。</p>		
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p> <p>理念の実施にむけ、カンファレンスやミーティングなどで具体的なケアを話し合い、方向性を一つにして行っている。</p>		
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p> <p>職員が考えた理念を掲示し、家族には来所時などに説明をしたり、ほのぼののだよりを発行したりし説明をしている。地域運営推進会議での話し合いや地域の回覧板などに回してもらい理解してもらえよう取り組んでいる。</p>	○	自治会の皆様には回覧板で周知したり、入居の家族には月1回と3カ月に1回の、ほのぼののだよりの発行でこれからも理解していただけるよう取り組みたい。
2. 地域との支えあい			
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りしてもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p> <p>近所のうどん屋で外食したり、近所のスーパーの利用や散歩の時など隣近所の人に挨拶したりしてお付き合いが出来るように努めている。</p>		
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p> <p>自治会員へホームの行事の参加を回覧板で誘ったり、コミュニティセンターの催し物を見学させてもらったりしている。また、地域主催の消防訓練の参加、保育所の園児の来所も定期的にあり交流を図っている。</p>	○	地域での行事や地域活動の参加をし交流をしていく。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	市民学級受講者の方々の体験学習の受け入れを話し合い、行った。	○	市民学級の体験学習などお話しがあればこれからも前向きに受け入れていきたい 来年度より要請があり、福祉専攻科の実習施設として、実習生の受け入れを計画なので、実行し継続していきたい。
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価・外部評価の結果をカンファレンスなどで話し合いの場を設け、案を出し、具体的な改善に取り組み努力している。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で毎月の行事や活動、取り組み等を報告し、話し合われた内容については、カンファレンスや申し送り等により報告、話し合いをし、それを活かした支援を行っている。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市からの研修や会議に参加をしている。困ったときに市の担当者に相談したり助言を受けたりしてサービスの向上に努めている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	制度は理解しているが、必要な入居者がいなかったので活用していない。	○	職員により十分な勉強が出来ていないと思われるので皆で学んでいきたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止法についてカンファレンスを設け、話し合いや勉強会をしたり、資料本などを回覧し、各自で読んで勉強してもらうなど虐待防止に努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>面会時間をとり十分な説明をし、納得してから契約をし、不安がないようにしている。</p>	
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>意見・不満・苦情をいつも言い出しやすいような雰囲気作りと関わり方を日頃よりしていき、それらが出た場合は速やかに対処し、運営推進会議で報告するようにしている。投書箱の設置をしている。</p>	<p>○</p> <p>入居者の意見をゆったりと時間を取り、十分に聞けるように配慮していきたい。</p>
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>機会ある都度、入居者に健康状態や暮らしぶりなど個々に合わせ、お話や手紙、電話などで報告している。定期的にだよりなども発送し知らせしている。</p>	<p>○</p> <p>家族とのコミュニケーションをもっととれるよう心がけていき、お便り便の発送も継続していきたい。</p>
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>運営推進会議を開催し、意見、相談、苦情が出たときは伝えるようにし、その場でも言いやすいようにしている。苦情相談窓口を設置し、普段から声かけ等により意見を言いやすい環境づくりに努めている。</p>	
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>毎月1回の全体カンファレンスを開催し意見や提案を聞き、反映させている。申し送りノートを活用したり、申し送り時や普段の会話の時も言いやすい環境づくりに努めている。</p>	
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>入居者の支援の必要度に合わせ、早番、遅番を導入しローテーションを組んでいる。必要時には職員と話し合い、勤務の調整をし確保に努めている。</p>	
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>固定した職員体制になっている。新しく職員が入った場合でも、きちんと入居者に紹介し、引き継ぎもスムーズに移行できるように配慮している。</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	資格取得の推進をしている。研修は機会ある毎に参加し、研修内容を発表したり回覧し、スキルアップの機会を作っている。職員同士でも機会がある毎に、勉強会などをし相談や指導をしている。	○	事業所外での研修は、時間が取れにくく難しいが、機会ある毎に順番に参加出来るようにしていきたい。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市の介護支援課主催の研修やその他の研修の参加を通じて、交流する機会やネットワーク作りをして、サービスの質の向上を目指している。	○	他の事業所との訪問や研修などにより接点を持ち、交流を図っていきたい。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	職員との会話をよく持つようにし、悩みやストレスを把握するように努めている 職員同士でも話し合っていてストレスが溜まらないようにしている 親睦の場を作り、気分転換を図れる機会を作っている。	○	職員が入居者と離れて一息入れるように、職員の意見を聞きながら配慮していきたい。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	職員の資格取得を支援し、本人の意見を重視しながら、各自の能力が職場内でいかせる環境づくりをしている 運営者は現場に頻繁に来られ、職員や入居者の現場での状況や変化の把握に努めている。	○	今後も引き続き取り組んでいきたい。
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	面接時などで本人の意見をよく聴き、生活状況、不安なことや希望する事など把握し、心身の状態や本人の思いに向き合い関係づくりに努める。		
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	事前面接時や相談時に、困っていることや思い、家族との関わり方やサービス利用状況など、これまでの経緯を聞き、受け止めるよう努力している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族の思いや状況を確認し、改善に向けた支援や相談をしながら、必要に応じたサービスの提供が行えるようにしていく。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人・家族に事業所を見学してもらうことから始め、職員の紹介、面会や相談しながら納得されたサービス支援を提供し、安心感を持って生活してもらうようにしている。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日常生活の中で、支援する側、支援される側という意識を持たず、個々の残存能力をいかした家事などを一緒に行い、協働での生活を心がけている。	○	グループホームで一つの家族という認識を、持つてもらうように努めている。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	面会時など声かけを行い、近況報告や情報交換に努め、情報を共有し、家族と一緒に本人を支えていく協力関係を築けるようにしている。	○	職員にも家族から気軽に話し掛けられているようなので、これからも気持ちよく思いや報告など受け入れるよう努力していきたい。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	日頃の様子の写真や個別の日誌など見てもらい近況報告したり、家族に手紙を書き連絡をしたりし、関係が途絶えないようにしている。また、行事に誘ったり、外泊や外出をし、家族と一緒に過ごす事を勧めている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	よく行っていた場所へのドライブや散歩、墓参り、馴染みの人との旧交を温めるなど支援をしているが機会が少ない。	○	積極的に希望を受け入れるなどをして今後多く機会を設けていきたい。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	入居者間での意思疎通が図れるよう手伝ったり、トラブルがあっても良好な関係になれるように間に入っているが、スムーズに出来ないこともある。	○	本人にモチベーションを持続してもらえるように励ましたり、職員が中に入り共通の話題を提供し調整役になって、良好な関係に持っていきけるようにしていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	入院したりサービスが終了しても、お見舞いに行ったり、事業所の方に来てもらうように誘ったりしている。	○	サービス利用が終了しても行事に参加したり、遊びに来てもらうようにして、継続的な付き合いが出来るようにしていきたい。
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	その人らしく生活できるように話し合い、本人の意向に添えるよう努力しているが、聞けない場合は家族とも話し合いを持ち、思いや意向の把握に努めている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活履歴を把握し、その人に合った生活ができるようケアしているが、今までの情報が主になり、収集する姿勢が不足している。	○	本人自身の語りや、家族・知人からの訪問時などに情報収集し、今後のケアに活かしていきたい。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	朝、夕の申し送りや月1回のカンファレンスで話し合い、意見の交換をし、職員同士で共有し把握している。	○	残存能力の活用と、その人なりの生活リズムにあった生活を見守っていきたい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	日頃の関わりの中で思いや意見を聞き、反映されるようにしている。プランがその人らしい生活に沿ったものであるように、カンファレンスで話し合っている。	○	家族・本人と話す時間や機会を多く設けていき、プランに反映していきたい。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月のモニタリングやカンファレンスで見直す取り組みをしている。対応できない変化が生じた場合も随時見直し、関係者と話し合いながら行っている。	○	現状に即した計画になるように必要に応じ、随時対応していく。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別にファイルを用意しており、入居者の情報変化はケアの記録に記載し、職員間の情報共有をしている。個別記録を基に介護計画の見直しや、評価を実施している。	○	日々の気づきや状況が分かりやすく記入され、介護計画の見直しや情報の共有に活かされるよう職員間で話し合っていきたい。
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人、家族の状況に応じて、通院や送迎など柔軟に対応し、個々の満足度を高めるようにしている。相談しやすい雰囲気作りをし、出来る限りの支援を行っている。	○	今後も引き続き取り組んでいきたい。
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	民生委員、警察、消防など協力体制が不足している面もある。ボランティアは必要に応じて協働体制を取り支援を行っている。	○	地域などよりいろいろ情報収集し、協力体制づくりを必要に応じて徐々にやっていきたい。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	協力医療機関のリハビリは通っているが、他のサービス事業所の利用は特に利用がない。今後必要に応じ本人・家族と相談しながら支援していきたい。	○	重度化に伴い入浴サービスの利用等必要に応じて検討していきたい。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議に地域包括支援センターの職員が参加するようになり、これをきっかけに関係が強化している	○	地域包括支援センターとの関係をこれからも強化するよう心がける。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所の協力医の他、希望する医療機関で、適切に受診を受けられるよう支援している。基本的には家族が付き添うようになっているが、場合により家族と相談し、職員や代表者が同行したりして随時対応している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	かかりつけ医で指示や助言を受けているがそれでも困難な場合は認知症専門医に受診をしている。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	事業所の協力医療機関の看護師と日頃の健康管理や医療面の相談・助言・対応を受けている。日頃より連絡ノートの交換や電話・FAX連絡をし、受診時の報告や状態変化の報告など、連帯を密に取れる体制にしている。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	連帯が確保されていて、常時、情報交換や相談を行っている。入院・退院に向けての連帯も整っていて、入院時は状況を見ながら職員も見舞うようにしている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合や終末期のあり方について、徐々に入居者や家族とのお話しは出来ているが、まだ共有できていない所もある。	○	適切なケアが出来るように対応方針の共有を図ってきたい。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	事業所での見極めは出来ていて、かかりつけ医との連携体制も取れ、チームとして支援に取り組んでいる。今後の変化に備え検討も行っている。		
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	新しく変わられた住まいでも、これまでの暮らしの継続性が失われないように十分に情報交換し、本人のダメージを最小限にしていきたい。		



項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	<p>○プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p> <p>本人を傷つけないようにさりげない言葉掛けや対応に配慮し、プライバシーを損ねないような対応をしている。記録など個人情報も保護している。</p>		
51	<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p> <p>職員側で決めたことを押し付けるようなことをせず、選択肢を提案し、入居者自身が決めていけるようにしているが、押し付けがましくなるようなこともある。</p>	○	自ら決定できるような場面づくりを多くし、納得して暮らしていけるような対応をしていきたい。
52	<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p> <p>入居者一人ひとりの生活のリズムを尊重し、その日したいことを大切にしていきたいが、職員任せや職員の都合に合わせていることもある。</p>	○	入居者自身がしたいことを考えて、実行していけるような支援をしていく。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p> <p>基本的には本人の意向で決めており、支援が必要な時は手伝うようにしている。理・美容は本人・家族と相談し、希望に沿うようにしている。</p>	○	出来るだけ本人の意思を尊重して、自己決定がしにくい方も職員と一緒に選び決めていきたい。
54	<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p> <p>職員と入居者が同じテーブルを囲んで楽しく食事できるよう雰囲気作りを大切にしている。準備や片付けなど声かけにより手伝ってくれることが多い。</p>	○	決まった人が積極的に手伝ってくれているが、他の人も自然な形で準備や片付けに、参加されるようにしていきたい。
55	<p>○本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p> <p>おやつは本人に合わせて調節して出している その他、買い物に出かけたりして本人の希望の物を購入したり、入居者により本人が管理している方もいる。</p>	○	疾病のある方もおられるため、その人に合ったおやつや嗜好品を出している。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄表や本人の様子により声かけや誘導をして、排泄、交換を行っている。声かけや誘導するときはあからさまにしないで、羞恥心やプライバシーに配慮している。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	職員と一緒に曜日を決めて入浴をしてもらっているが、本人が希望すれば、相談しながら毎日でも好きな時間に入ってもらっている。	○	今後も引き続き取り組んでいきたい。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	なるべく日中活動を促し、生活リズムを整えるように努めている。夜間は安眠に配慮し、寝れない時は温かい飲み物を飲んでもらったりおしゃべりをするなどし、個別に対応している。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの特技や趣味などの把握に努め、それを活かした作業や楽しみごと、気晴らしなどの支援を行っている。お願いできそうな仕事を頼み感謝の言葉を伝えるようにしている。	○	行事や外出、楽しみごとなど入居者の方も交え相談しながら行っていきたい。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個々にあったお金の取り扱いをしており、いつでも希望により使えるようにし、家族に定期的に報告している。家族や本人と相談し、自分で管理している人と担当者が管理している人がいる。	○	今後も個別に対応していく。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	受診などで行けない時があるが、散歩やドライブ、買い物など外出を支援している。行きたい所の希望を聴き、なるべく実現できるようにしている。	○	行きたいとき、行きたい所へ希望に沿うような外出支援をしていきたい。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	予め計画を立て、時季の場所に行けるように支援している。家族とも相談し、家族と行ける方は出かけられる機会を作り支援している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望すれば電話や手紙のやり取りの支援をしている。家族にも相談して、連絡が取りやすいようにしている。	○	家族により本人との連絡がとり難くなっているのを、徐々に連絡が取れるようにしていきたい。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	友人や馴染みの方が気軽に訪問できるように明るい雰囲気作りをし、お茶など提供しゆっくり過ごしてもらえている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は行う必要なく行っていない。高齢者虐待や身体拘束に関する勉強会を事業所の中で実施し、資料なども配布や回覧をしている。	○	高齢者虐待や身体拘束に関する勉強会を定期的に行い、職員の共通認識を図って行きたい。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関の鍵は夜間、防犯の為以外はかけていない。見守りを徹底したり、感知音で知らせるなど工夫をし、鍵をかけないケアに取り組んでいる。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	プライバシーに配慮しながら日中はホールにおいて職員が様子や所作の把握に努めている。夜間も時間毎に確認するとともに、起きられたときに直ぐ対応できるようにしている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	裁縫道具やはさみ等、危険な物は事務所、包丁はキッチンに安全に保管し確認をしている。入居者の状況により対応している。	○	入居者の状況変化により注意を促していくなどケースに応じた対応をしていく。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	予測される危険を検討し、食事の工夫や服薬の方法など事故を未然に防ぐ取り組みを行っている。ヒヤリハットを記録し、職員の共通認識を図っている。事故があった時は報告書を作成し、今後の予防対策について検討し、家族への説明と報告を行っている。	○	夜間時、排泄の為の移動時の転倒、ベッドからの転落など見守りをして防止に努めている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	マニュアルは存在し話し合っているが、応急手当や早期対応の訓練を定期的には行っていない。	○	全職員が応急手当や早期対応の訓練を定期的に行えるようにしていきたい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	マニュアルは存在し、避難訓練も定期的に行われている。地域の避難訓練にも参加していて、自治会でもお願いしている。	○	今後も引き続き取り組んでいきたい。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	抑制を行わず生活して、予測される転倒やトラブルのリスクについてカンファレンスや面会時などを通して個々に説明や報告、相談をしている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	日々の様子観察、バイタルチェック、体重測定など記録し、普段の状況を把握し、異常時の早期発見に努め医療受診につなげている。	○	バイタルチェックは1日2回、体重測定は1月1回実施し、記録して、状況変化のチェックをしている。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人のお薬手帳、服用薬品名カードのファイル、服薬チェック表を整理し、職員が内容を把握できるようにしている。服用時には毎回本人に手渡し、または介助し、服用できているか確認をしている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排泄チェック表、申し送り等で排泄の把握をし、水分補給、毎日の体操等により適度に身体を動かすように促し、便秘の予防に努めている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、職員の声かけで口腔ケアを行い、力に応じて見守ったり介助したりしている。毎日就寝前は義歯の洗浄を行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量や水分摂取の記録をし、チェックしている。必要量確保できるよう声かけや調理法の工夫をしている。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症の予防マニュアルがあり、実行している。インフルエンザワクチンは入居者や職員の出来る人は接種している。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理用品、布巾、食器など漂白や除菌をし、衛生管理に努めている。消費期限や賞味期限に気を配り、安全な食材の使用と管理を行っている。		
2..その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	建物の前には畑があり季節ごとの野菜を植え、戸口には鉢植えやベンチ、玄関には観葉植物や季節ごとの生け花・置物を置き工夫をしている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	絵画や観葉植物、季節感のある花など飾り、居心地よい空間作りに配慮している。庭にも桜、紅葉、椿、さざんかなど樹木を植え季節感を感じられるようにしている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールにテーブルとソファを置き、利用者同士で過ごしたり、一人で過ごす時は居室でいるなどして自由にされている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人や家族と相談しながら、居心地よく過ごせるように自由に持って来てもらっている。写真を飾ったり、本人が使っていた椅子を持って来るなどされている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気の上よみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	外気温との温度差や入居者の様子を見て温度調節を行っている。換気したりし消臭剤を使用し、気になる臭いや空気の上よみなど十分に注意している。		
<b>(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</b>				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりの設置、滑り止めシートの使用、玄関口に椅子を置くなどの工夫、入居者に合わせた調節をするなど自立を意識した支援をしている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	本人にとって何が分かりにくいのか、どうしたら本人の力でやっていけるのかなどカンファレンス等で話し合っている。職員も分かりやすく話したり、忘れてもその都度にまたゆっくり話すなどし不安を取り除くようにしている。	○	状況に合わせて、その都度環境整備も考えていく。
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	建物の前に畑があり、庭には桜や紅葉、紫陽花、椿など植栽されていて、入居者が楽しみながら活動できるような環境づくりをしている。		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/>	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない

項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

入居者の笑顔が職員が一番の喜びであり、一日一日が楽しく笑いのある生活が出来るようにしている。